

いじめ防止基本方針



令和8年4月
珠洲市立蛸島小学校

目 次

第 1	いじめの防止等のための対策の基本的な方向に関する事項	
1	いじめの定義と生徒指導提要（改訂版）における防止に向けたポイント・・・	1
2	いじめの防止等に関する基本的な考え方	1
(1)	いじめの未然防止	1
①	いじめを許さない雰囲気づくり	
②	分かる授業づくりの推進	
③	自己有用感や自己肯定感の涵養	
④	児童が自らいじめを学ぶ機会の設定	
⑤	いじめ未然防止における検証	
(2)	いじめの早期発見	2
①	アンケート調査や教育相談の実施	
②	教師と児童の信頼関係の構築	
③	家庭や地域との連携	
④	教職員間の情報共有	
(3)	いじめへの対処	2
①	組織的な指導体制の確立	
②	関係機関との連携	
③	インターネットを通じて行われるいじめへの対応	
(4)	いじめの解消	3
(5)	いじめの認知件数が零であった場合の公表について	3
第 2	いじめの防止等のための対策の内容に関する事項	4
1	いじめの防止等のために実施する施策	4
(1)	いじめ問題対策チームの設置（常設）	4
①	目的	
②	構成	
③	役割	
(2)	いじめの防止等の具体的な取組	5
①	授業改善に関わる取組	
②	道徳教育や人権教育等の充実	
③	自己有用感や自己肯定感を育む取組	
④	児童会の取組	
⑤	情報モラル教育の充実	
⑥	アンケートや教育相談	

- ⑦ 校内研修の実施
- ⑧ 家庭や地域との連携
- ⑨ 年間指導計画表

(3) いじめの早期発見に関する留意事項	9
① 学校で分かるいじめ発見のポイント	
② 家庭で分かるいじめ発見のポイント	
(4) いじめへの対処に関する留意事項	12
① いじめを受けている児童への対応	
② いじめを行っている児童への対応	
③ いじめを受けている児童の保護者への学校の対応	
④ いじめを行っている児童の保護者への学校の対応	
⑤ 周りで見えていたり、はやし立てたりしている児童への学校の対応	

2 重大事態への対処	14
(1) 重大事態の発生と報告	14
① 重大事態の意味	
② 重大事態の報告	
(2) 重大事態の調査	15
(3) 調査結果の提供及び報告	15
① いじめを受けた児童及びその保護者への適切な情報提供	
② 調査結果の報告	

第3 その他いじめの防止等のための取組に関する事項	16
1 学校いじめ防止基本方針の公表	16
2 主な相談機関の案内	16

第4 いじめ発見時の対応	17
--------------	----

第1 いじめの防止等のための対策の基本的な方向に関する事項

1 いじめの定義と生徒指導提要（改訂版）の防止に向けたポイント

「いじめ」とは、児童に対して、当該児童が在籍する学校に在籍している等、当該児童と一定の人的関係にある他の児童が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童が心身の苦痛を感じているものをいう。

生徒指導提要（改訂版）では、各学校の「いじめ防止基本方針」の具体的な展開に向けた見直しと共有、学校内外の連携を基盤に実効的に機能するいじめ対策組織の構築、事案発生後の対応的な指導ではなく、子ども達が自発的に自分を成長・発達させていくことを支える生徒指導や、未然防止や早期発見の予防的生徒指導、そしていじめを生まない環境づくりと、いじめをしない、許さない態度や能力を身に付けるような働きかけを行うこととしている。

2 いじめの防止等に関する基本的な考え方

(1) いじめの未然防止

児童が、周囲の友人や教職員と信頼できる関係の中、安全・安心に学校生活を送ることができ、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくり・集団づくり・学校づくりを行っていく。

① いじめを許さない雰囲気づくり

全校集会や学級活動などで校長や教職員が、日常的にいじめの問題について触れ、「いじめは人間として絶対に許されない」との雰囲気を学校全体に醸成する。

教職員の不適切な認識や言動により、児童を傷つけたり、他の児童によるいじめを助長したりしないよう十分注意する。特に、教職員による「いじめられる側にも問題がある」という認識や発言は、いじめを行っている児童や、周りで見えたり、はやし立てたりしている児童を容認するものにほかならず、いじめを受けている児童を孤立させ、いじめを深刻化させるので、指導の在り方には細心の注意を払う。また、感染症に関わる差別や偏見を受けないように注意を払う。

② 分かる授業づくりの推進

児童が学校で過ごす中で一番長い時間は授業であり、授業についていけない焦りや劣等感などが過度なストレスの要因とならないよう、一人一人を大切にしたり分かりやすい授業づくりを行う。また、「いしかわ学びの指針12か条+（プラス）」を踏まえ、生徒指導の機能を生かした授業改善を推進する。

③ 自己有用感や自己肯定感の涵養

ねたみや嫉妬などいじめにつながりやすい感情を減らすために、全ての児童が、認められている、満たされているという思いを抱くことができるよう、学校の教育活動全体を通じ、児童が活躍でき、他者の役に立っていると感じ取ることのできる機会を提供し、児童の自己有用感が高められるよう努める。また、自己肯定感を高められるよう、困難な状況を乗り越えるような体験の機会などを積極的に設ける。

④ 児童が自らいじめを学ぶ機会の設定

児童自身が、いじめの問題を自分たちの問題として受け止めるために、「いじめを見逃さない学校づくり推進事業」等を活用して、自らが学び、主体的に考え、いじめの防止を訴えるような取組を推進する。

⑤ いじめ未然防止における取組目標と検証

生活アンケートで「学校は楽しいですか」の項目において、「楽しい」と回答する児童の割合を80%以上にする。

(2) いじめの早期発見

児童のささいな変化に目を向け、気付いた情報を確実に共有し、そして、情報に基づき速やかに対応する。児童の変化に気付かずにいじめを見過ごしたり、せっかく気付きながら見逃したり、相談を受けながら対応を先延ばしにしたりすることがないように注意する。

① アンケート調査や教育相談の実施

定期的なアンケート調査や定期的な教育相談を年間計画に基づき実施し、いじめの実態把握に取り組むとともに、児童が日頃からいじめを訴えやすい雰囲気をつくる。ただし、アンケートはあくまで手法の一つであり、本当のことを書けなかったり、実施した後にいじめが起きたりする場合があることに留意する。

② 教師と児童の信頼関係の構築

いじめの訴えや発見は、教師と児童の信頼関係の上で初めてありうることを踏まえ、日常的な人間関係づくりに努める。休み時間や放課後等での会話や声かけ、個人ノートや生活ノート等での交流を通して、信頼関係を構築し、交友関係や悩みを把握するよう努める。

なお、児童が教職員に相談してくれた場合に、後で話を聞くと行って対応しないなど、その思いを裏切ったり踏みにじったりしないよう、十分注意する。

③ 家庭や地域との連携

保護者アンケートや保護者懇談等を通して、家庭との連携を図るとともに、日頃から、校区の公民館や見守り隊、警察署等とも連携を密に行い、家庭や地域と一体になって児童を見守り、健やかな成長を支援する。

④ 教職員間の情報共有

いじめについて集まった情報については、学校全体で共有する。

(3) いじめへに対する措置

いじめの発見・通報を受けた場合には、特定の教職員で抱え込まず、迅速かつ組織的に対応する。また、学校の定めた方針等に沿って、いじめに係る情報を適切に記録しておく。いじめを受けた児童を徹底して守り通すとともに、いじめを行った児童に対しては、当該児童の人格の成長を旨として教育的配慮の下、毅然とした態度でいじめを行った児童を指導する。その際、謝罪や責任を形式的に問うことに主眼を置くのではなく、社会性の向上など、児童の人格の成長に主眼を置いた指導を行う。教職員全員の共通理解の下、保護者の協力を得て、関係機関・専門機関と連携し、対応に当たる。

① 組織的な指導体制の確立

校内に、「いじめ問題対策チーム」を組織する。発見・通報を受けた教職員は直ちに「いじめ問題対策チーム」に情報を報告・共有し、その後は、組織的に対応する。このため、組織的な対応を可能とするよう、体制を整備し、平素より、いじめを把握した場合の対処の在り方について、全教職員で共通理解しておく。

② 関係機関との連携

いじめを認知した際、校長は、責任を持って珠洲市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に報告し、いじめが解消するまで毎月（5日まで）報告する。

いじめを行う児童に対して必要な教育上の指導を行っているにもかかわらず、その指導により十分な効果を上げることが困難な場合において、いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものと認めるときは、いじめを受けている児童を徹底して守り通すという観点から、所轄警察署と相談して対処する。

なお、児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに所轄警察署に通報し、適切に援助を求める。

また、警察等の関係機関と適切な連携を図るため、平素から、情報共有体制を構築しておく。

③ インターネットを通じて行われるいじめへの対応

インターネット上の不適切な書き込み等については、被害の拡大を避けるため、直ちに削除する措置をとる。速やかに削除することが難しい場合には、教育委員会に連絡し、地方法務局や警察等の関係機関と連携して対応する。また、学校の教育活動全体を通して、情報モラル教育の充実を図る。

(4) いじめの解消

いじめが「解消している」状態とは、少なくともいじめに係る行為が止んでいること、被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないことであり、被害児童生徒に対する心理的又は物理的な影響を与える行為が止んでいる状態が少なくとも3か月は継続していることを目安とする。ただし、いじめの被害の重大性等から更に長期の期間が必要とされる場合は、「いじめ問題対策チーム」で判断し、より長期の期間を設定する。

また、被害児童本人とその保護者に対して、心身の苦痛を感じていないかどうかを面談等によって確認する。

いじめが「解消している」状態に至った場合でも、いじめが再発する可能性が十分にあり得ることを踏まえ、教職員は、いじめの被害児童及び課題児童については日常的に注意深く継続して観察する必要がある。

(5) いじめの認知件数が零であった場合の公表について

いじめの認知件数が零であった場合は、11月に行われる授業参観後の学校説明会や2月のPTA懇談会の場において、保護者へ伝えることとする。

第2 いじめの防止等のための対策に関する事項

1 いじめの防止等のために実施する施策

(1) いじめ問題対策チームの設置（常設）

① 目的

いじめの早期発見・早期対応に向けて、平時からいじめの問題に備え、いじめの発見時には、迅速かつ積極的な対応を行う。

② 構成

校長をトップに、教頭、生徒指導主事、養護教諭、特別支援コーディネーター、関係学級担任とし、実情に応じて課外活動担当者等の必要と思われる教職員等を加え構成する。

校務分掌においては、従来の生徒指導部会等からは独立し、委員会扱いとして組織図に位置づける。場合に応じてスクールカウンセラーやいじめ対応アドバイザーとも連携を図る。

③ 役割

ア 未然防止の推進など学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施，進捗状況の確認，定期的検証

- ・学校いじめ防止基本方針の作成・見直し
- ・いじめの防止等に向けた具体的な取組の進捗状況の確認・検証
(生活アンケートの中の、「いじめは絶対にしてはいけないと思う」という項目で肯定の意見100%を目指す。)
- ・取組の実施中の記録や実施後の振り返り状況の確認
- ・授業時間，休み時間や放課後の定期的な校内巡視と情報の共有・報告 等

イ 教職員の共通理解と意識啓発

- ・学校いじめ防止基本方針の全ての教職員に対する周知と啓発
- ・P D C Aサイクルにおける取組の検証と改善策の共通理解
- ・各種調査や教育相談の内容・方法の検討及び結果の分析
- ・いじめに関する研修資料や各種情報の収集・提示 等

ウ 児童や保護者・地域に対する情報発信と意識啓発，意見聴取

- ・学校いじめ防止基本方針の児童や保護者・地域に対する周知と啓発
- ・児童会が主体となった取組の推進
- ・学校におけるいじめ相談窓口の設置と児童，保護者等への周知
- ・P T Aや関係機関等との日常的な情報交換と相談しやすい関係の構築 等

エ 個別面談や相談の状況把握及びその集約

- ・各種調査や教育相談の進捗状況の把握
- ・相談事例の集約と内容の分析 等

オ いじめやいじめが疑われる行為を発見した場合の集約

- ・関係教職員の招集及び役割分担
- ・教職員からの情報収集及び整理 等

カ 発見されたいじめ事案への対応

- ・対応の方針の決定及び関係教職員への指示
- ・教育委員会への報告・相談
- ・対応の進捗状況の確認と関係教職員への助言や支援
- ・関係機関への協力要請 等

キ 重大事態への対応

- ・教育委員会への報告・相談
- ・教育委員と連携した対応 等

(2) いじめの防止等の具体的な取組

① 授業改善に関わる取組

「日々の学校生活の改善から未然防止は始まる」という観点から、積極的に授業改善を行う。その際、「いしかわ学びの指針12か条+（プラス）」及び、学校研究を踏まえて焦点化した取組を教職員が共通実践する。

【取組】

- ・事前教材研究・模擬授業・授業整理会を積極的に行い、授業力を高める。
- ・学校全体で「伝え、つなげる話し方」について共通理解し、話し方表を掲示して、指導する。
- ・書くことを通して自分の考えをまとめる時間を設けるとともに、自力解決の割合に応じて、学びあいの進め方(ペア・グループ・一斉)を変えて授業を行う。
- ・児童アンケートを毎月行い、楽しい・わかる授業が実施されているかを分析し、授業改善に活かす。教師アンケートも毎月行い、日々の授業を振り返り改善に活かす。
- ・生活振り返りカードの取組を年間3回行い、学習規律の振り返りとよりよい学習・生活習慣づくりに向けた指導を実施する。
- ・校内研修サポート事業や要請訪問を活用して、授業力を高める。

② 道徳教育や人権教育等の充実

人の気持ちを共感的に理解できる豊かな情操を培い、自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、お互いの人格を尊重する態度を養うよう、学校の教育活動全体を通じた道徳教育や人権教育等の充実を図る。

【取組】

- ・週案に新学習指導要領の内容項目を明記し、狙いを明確にした道徳の授業を実施する。
- ・地域人材や体験活動と関連付けた道徳の授業を行う。
- ・道徳ワークシートを基に、自分の心の変容を振り替える。
- ・人権週間に、講演会(人権にかかわる物語の読み聞かせの会等)を実施し、いじめについて考え、撲滅に向けた実践につなげる。

③ 自己有用感や自己肯定感を育む取組

学校行事や体験活動を通して、集団の一員としての自覚や態度、資質や能力を育むために、児童自らが主体的に取り組む中で、自らを成長させながら互いのことを認め合ったり、心のつながりを感じたりできるよう意識的に活動を工夫する。

【取組】

- ・縦割り班活動の充実を図る。
 - 野外体験活動（遠足リクリレーション）
 - 練習期間のある体験活動（大縄練習、百人一首大会）
- ・ボランティア活動の充実を図る。
 - 児童会主催のボランティア活動（学校花壇の世話、町内ゴミ拾い）
 - 青年福祉委員会との連携（鉢ヶ崎花壇の世話、町子ども大会）
 - 蛸島地区社会福祉協議会との連携
 - 蛸島町青壮会との連携（鉢ヶ崎海岸でクロマツの植林）
 - P T Aとの連携（親子町内清掃）
 - 公民館との連携（町文化祭の作品展示、お年寄りとの交流）
 - 地域の先生による太鼓教室の実施と地域行事への参加
 - 学校行事での連携（運動会地域交流種目、行事の招待状等）
- ・児童会の委員会活動等の充実を図る。

④ 児童会の取組

児童会が中心となり、児童自らがいじめの問題について学び、主体的に考え、いじめの防止を訴えるような取組を推進する。

【取組】

- ・いじめ撲滅標語、防犯標語を作成し、児童玄関等に掲示する。
- ・いじめを考える集会を実施する。
- ・なかよし集会を開催する。
- ・なわとび集会（縄跳び練習）を実施する。
- ・月の生活目標を意識した委員会活動を行う。

⑤ 情報モラル教育の充実

情報発信による人・社会への影響や、ネットワーク上のルール・マナーを守ることの意味について考えさせるなど、情報モラル教育を児童の発達段階に応じて体系的に推進する。また、携帯電話・インターネットの利用の問題に関しては、家庭との連携を図りつつ、適切に指導を行う。

【取組】

- ・情報教育全体計画における重点目標に各学年にあった情報モラルを明記し、指導する。
- ・各教科の調べ学習時を活用して、インターネットの有効な活用方法とそこに潜む危険性等について指導する。
- ・非行被害防止講座として、外部の講師を招き、保護者対象（内容によっては児童も対象）にネットに潜む危険性とネットによるいじめ防止について学ぶ講演会を実施する。

⑥ アンケートや教育相談

年間に複数回（学期に1回以上）のアンケート調査及び定期的な教育相談を実施し、いじめの実態把握・早期発見に努める。

【取組】

- ・年3回、相談週間を設け、「教育相談」（蛸島っ子面談）を実施する。担任以外の教職員が面談し、いじめの早期発見・早期対応に努める。
- ・毎月1回、「いじめに関するアンケート調査」を行い、いじめの早期発見・早期対応に努める。
- ・年2回のQUアンケートを実施する。
- ・「携帯電話・インターネット等利用調査」を活用し、いじめの背景等の実態把握に努める。
- ・スクールカウンセラーと面談し、自分の思いを聞いてもらうようにする。

⑦ 校内研修の実施

全ての教職員の共通認識を図るため、少なくとも年に2回以上、年間計画に位置づけ、いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題等に関する校内研修を行う。

【取組】

- ・いじめの事例検討会を実施し、校内体制の確認を行う。
- ・月1回、定期的に「児童理解の会」を開催し、各種調査の結果をもとに児童に対応した具体的取組を実施する。また、前回の職員共通の取組について検証する。
- ・QUアンケートの結果を踏まえ、児童の実態と対応について校内研修を行う。支援の必要な児童の対応について共通理解を図り共通行動する。
- ・いじめ対応アドバイザーを招き、いじめの防止等についての研修を行う。

⑧ 家庭や地域との連携

学校いじめ防止基本方針の策定後、児童や保護者・地域に対して、その主旨や理解してもらいたい点について説明する。また、学校のホームページでも公表する。その他、家庭訪問や学校通信などを通じて家庭との緊密な連携協力を図る。

【取組】

- ・学校運営協議会で、学校のいじめに対する取組を説明し、方策について協議する。
- ・学校説明会（教育ウィーク期間）で、学校いじめ防止基本方針について、保護者に説明する。
- ・公民館運営委員会で、学校いじめ防止基本方針について、各種団体長に説明する。
- ・「いじめに関するアンケート」及び「携帯電話・インターネット等利用調査」の結果について、本市の結果と比較しながら保護者に提示する。
- ・家庭訪問や保護者との個人懇談・学級懇談において、児童の状況について情報交換する。
- ・課外スポーツ活動の指導者と情報交換する機会を設ける。
- ・町子ども大会の実施後、青年福祉員と情報交換をする。
- ・行事等の参観を通して小学校と保育園の交流を図り、情報交換する。
- ・小中連携や緑丘中校区6校の小小連携を基に、情報交換する。

⑨ 年間指導計画表

月	学校行事等	いじめの防止等に関わる取組							
		①授業改善に関わる取組	②道徳教育や人権教育等の充実	③自己有用感や自己肯定感を育む取組	④児童会の取組	⑤情報モラル教育の充実	⑥アンケートや教育相談	⑦校内研修の実施	⑧家庭や地域との連携
4	始業式・入学式 授業参観・懇談会 PTA総会	重点の確認、1学期の取組の共通理解	道徳の年間指導計画表作成	特別活動の全体計画・年間計画の確認 野外体験活動		情報モラル教育の指導計画確認		職員会議(学校いじめ防止基本方針の周知)	学校いじめ防止基本方針の周知、公民館運営委員会 学校運営協議会
5		生活振り返りカード		学校花壇(球根とり)	なかよし集会		QUアンケート いじめ・携帯電話アンケート		
6	授業参観・懇談会			町内ゴミ拾い		非行被害防止講座(ネットのいじめ・危険性)	蛸島っ子面談(教育相談)	支援の必要な児童への共通理解と共通行動	学校評議員会、鉢ヶ崎花壇(植え) AED講習会、
7	終業式 保護者懇談	指導主事訪問A 取組の分析・改善の明確化、児童・教師アンケート、	道徳の時間の実施状況の確認						課外スポーツ指導者と情報交換
8		2学期の取組の共通理解						校内研修会(事例検討)	家庭訪問
9	始業式 授業参観・懇談会	学校評価		地域行事参加(太鼓)					地域行事参加(太鼓) 学校運営協議会
10	合同運動会 親子体験活動就学時健診 遠足・修学旅行	生活振り返りカード		地域交流種目	スローガンづくり 前期ふりかえり		蛸島っ子面談(教育相談)		親子奉仕作業・親子体験活動
11	授業参観・学校説明会・給食試食会・懇談会、学習発表会	校内研修サポート事業 指導主事訪問B	「道徳」の公開	行事招待状交流	なかよし集会		QUアンケート		携帯電話等の適切な利用の呼びかけ、基本方針再周知
12	保護者懇談 終業式	取組の分析・改善点、3学期の取組の共通理解、児童・教師アンケート	人権週間の取組 道徳の時間の実施状況の確認	学校花壇(球根植え)、	人権集会			支援の必要な児童への共通理解と共通行動	
1	始業式 そり・スキー教室	担当校訪問			なかよし大作戦				町子ども大会、青年福祉員と情報交換
2	授業参観・懇談会 新入生説明会	取組の分析・改善、 学校評価 生活振り返りカード	道徳教育の全体計画・年間指導計画の見直し 家庭学習強化週間	特別活動の全体計画・年間計画の見直し 感謝の手紙	なかよし集会		蛸島っ子面談(教育相談)		学校運営協議会
3	卒業式 修了式	次年度の学力向上プラン作成	次年度の重点項目の確認	クロマツ植林	後期ふりかえり	情報モラル教育の指導計画見直し	アンケートの見直し	校内研修会(次年度の取組)	自然保全活動
通年		研究授業	年間指導計画に基づく道徳の時間の実施	児童会の委員会活動の充実	月目標を意識した委員会活動、挨拶運動	調べ学習を活用した情報モラル教育の実施	月1回「いじめアンケート」実施	月1回「児童理解の会」実施	学校だよりによる周知・啓発、保護者への連絡

(3) いじめの早期発見に関する留意事項

① 学校で分かるいじめ発見のポイント

学校生活の中で、児童は様々な悩みや不安にともなうサインを、言葉や表情、しぐさなどで表している。教師は、一人一人の児童が救いを求めて発するサインを見逃さず、早期に対応する。

<学校での一日>

○ いじめを受けている児童が学校で出すサイン

※印 無理にやらされている可能性のあるもの

発見の機会	観察の視点（特に、変化が見られる点）	
朝の会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遅刻・欠席が増える ○ 表情が冴えず、うつむきがちになる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 始業時刻ぎりぎりの登校が多い ○ 出席確認の声が小さい
授業開始時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 忘れ物が多くなる ○ 用具、机、椅子等が散乱している ○ 一人だけ遅れて教室に入る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 涙を流した気配が感じられる ○ 周囲が何となくざわついている ○ 席を替えられている
授業中	<ul style="list-style-type: none"> ○ 正しい答えを冷やかされる ○ 発言に対し、しらげや嘲笑が見られる ○ 責任ある係の選出の際、冷やかし半分に名前が挙げられる ○ ひどいアダ名で呼ばれる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループ分けで孤立することが多い ○ 保健室によく行くようになる ※ 不まじめな態度で授業を受ける ※ ふざけた質問をする ※ テストを白紙で出す
休み時間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人でいることが多い ○ わけもなく階段や廊下等を歩いている ○ 用もないのに職員室等に来る ○ 遊びの中で孤立しがちである ○ プロレスごっこで負けることが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集中してボールを当てられる ○ 遊びの中で、いつも同じ役をしている ※ 大声で歌を歌う ※ 仲良しでない者とトイレに行く
給食時間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食べ物にいたづらをされる ○ グループで食べる時、席をはなしている ○ その児童が配膳すると嫌がられる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 嫌われるメニューの時に多く盛られる ※ 好きな物を級友に譲る

清 掃 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目の前にゴミを捨てられる ○ 最後まで一人でする ○ 椅子や机がぼつんと残る 	<ul style="list-style-type: none"> ※ さぼることが多くなる ※ 人の嫌がる仕事を一人でする
放 課 後	<ul style="list-style-type: none"> ○ 衣服が汚れたり髪が乱れたりしている ○ 顔にすり傷や鼻血の跡がある ○ 急いで一人で帰宅する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 用事がないのに学校に残っている日がある ○ 部活動に参加しなくなる ※ 他の子の荷物を持って帰る

○ いじめを行っている児童が学校で出すサイン

発見の機会	観察の視点（特に、変化が見られる点）	
授 業 中	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文具等を本人の許可もないのに勝手に使っている ○ プリント等の配布物をわざと配らなかつたり、床に落としたりする ○ 自分の宿題をやらせている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指名されただけで目配りし、嘲笑する ○ 後ろからイスを蹴ったり、文具等で身体をついたりしている ○ 授業の後片付けを押しつけている
休 み 時 間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 嫌なことを言わせたり、触らせたりしている ○ けんかするよう仕向けている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 移動の際等、自分の道具を持たせている ○ 平気で蹴ったり、殴ったりしている
給 食 時 間	<ul style="list-style-type: none"> ○ 配膳させたり、後片付けさせたりしている ○ 自分の嫌いな食べ物を押しつける 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の好きな食べものを無理矢理奪う
清 掃 時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雑巾がけばかりさせている ○ 雑巾を絞らせている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 机をわざと倒したり、机の中のものごとを落としたりする
放 課 後	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の用事に付き合わせる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 違う部活動なのに待たせて一緒に帰る

<注意しなければならない児童の様子>

様子等	観察の視点（特に、変化が見られる点）	
動作や表情	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活気がなく、おどおどしている ○ 寂しそうな暗い表情をする ○ 手遊び等が多くなる ○ 独り言を言ったり急に大声を出したりする 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視線を合わさない ○ 教師と話すとき不安な表情をする ○ 委員を辞める等やる気を失う ※ 言葉遣いが荒れた感じになる
持ち物や服装	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書等にいたずら書きされる ○ 持ち物、靴、傘等を隠される 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 刃物等、危険な物を所持する ○ 服装が乱れたり破れたりしている
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日記、作文、絵画等に気にかかる表現や描写が表れる ○ 教科書、教室の壁、掲示物等に落書きがある ○ 教材費、写真代等の提出が遅れる ○ インターネットや携帯電話のメールに悪口を書き込まれる ○ SNSのグループから故意に外される 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 飼育動物や昆虫等に残虐な行為をする ○ 下足箱の中に嫌がらせの手紙等が入っている ※ 校則違反、万引き等の問題行動が目立つようになる

② 家庭で分かるいじめ発見のポイント

保護者から、児童の家庭での様子について、以下のような相談があった場合、いじめを受けているのではないかと受け止め、指導に当たる。

<いじめを受けている児童が家庭で出すサイン>

<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の汚れが見られたり、よくけがをしたりしている。 ・風呂に入りたがらなくなる。（殴られた傷跡等を見られるのを避けるため） ・買い与えた学用品や所持品が紛失したり、壊されたりしている。 ・食欲がなくなったり、体重が減少したりする。 ・寝付きが悪かったり、夜眠れない日が続いたりする。 ・表情が暗くなり、言葉数が少なくなる。 ・いらいらしたり、おどおどしたりして、落ち着きがなくなる。 ・部屋に閉じこもることが多く、ため息をついたり、涙を流したりする。 ・言葉遣いが荒くなり、親やきょうだいに反抗したり、八つ当たりしたりする。 ・親から視線をそらしたり、家族に話しかけられることを嫌がったりする。 ・ナイフ（刃物）などを隠し持つことがある。 ・登校時刻になると、頭痛、腹痛、吐き気などの身体の不調を訴え、登校を渋る。

- ・転校を口にししたり，学校をやめたいなどと言い出したりする。
- ・家庭から品物やお金を持ち出したり，余分な金品を要求したりする。
- ・親しい友人が家に来なくなり，見かけない者がよく訪ねてくる。
- ・不審な電話や，嫌がらせの手紙が来る。友人からの電話で，急な外出が増える。
- ・自己否定的な言動が見られ，死や非現実的なことに関心をもつ。
- ・投げやりで，集中力がわからない。ささいなことでも決断できない。
- ・テレビゲームなどに熱中し，現実から逃避しようとする。

<インターネットを通じて行われるいじめを受けている児童が家庭で出すサイン>

- ・携帯電話やパソコンを頻繁にチェックする，又は，全く触れようとしなくなる。
- ・親が近づくとパソコンの画面を切り替え，画面を隠そうとする。
- ・インターネットを閲覧した後に，動揺しているような行動をとる。
- ・携帯電話の着信音に，怯えるような態度をとる。
- ・電話やメールの受信後に，そっと一人で出かけようとする。

(4) いじめへの対処に関する留意事項

いじめを発見した場合は，全体に対する指導だけで終わるのではなく，いじめを行っている児童，いじめを受けている児童への個別の指導を徹底するとともに，いじめを行っている児童，いじめを受けている児童双方の家庭にいじめの実態や経緯等について連絡し，家庭の協力を求める。

また，「いじめを絶対に許さない」雰囲気为学校全体に醸成するためにも，周りで見ている児童，はやし立てたりしている児童への指導も行う。

① いじめを受けている児童への対応

【学校】

- ・いじめを受けている児童を必ず守り通すという姿勢を明確に示し，安心させるとともに教職員の誰かが必ず相談相手になることを約束する。
- ・決して一人で悩まずに，友人や保護者，教職員等誰かに相談すべきことを十分指導する。
- ・いじめの事実関係を正しく把握することが必要であるが，その場合，冷静に，じっくりと児童の気持ちを受容し，共感的に受け止め，心の安定を図る。
- ・いじめを行った児童の謝罪だけで，問題が解決したなどという安易な考えを持たずに，その後の行動や心情をきめ細かく継続して見守る。
- ・児童の長所を積極的に見つけ，認めるとともに，自ら進んで取り組めるような活動を通して，やる気を起こさせ，自信を持たせる。
- ・いじめを受けている児童を守り通すとの観点から，場合によっては，緊急避難としての欠席や転校措置等，保護者と相談しながら弾力的に対応する。

【家庭に望むこと】

- ・子供の様子に十分注意して、子供のどんな小さな変化についても気をつけ、何かあったら学校に相談し、協力していく。
- ・子供の長所を積極的に見つけ、認めるとともに、家族にとってかけがえのない存在であることを理解させ、自信を持たせる。
- ・必ず守り通すという姿勢を明確に示し、安心させるとともに、本人の話を冷静に、じっくりと聞き、子供の気持ちを受容し、共感的に受け止め、心の安定を図る。

② いじめを行っている児童への対応

【学校】

- ・頭ごなしに叱るのではなく、いじめを受けた児童の心理的・肉体的苦痛を十分理解させ、いじめが人間として絶対許されない行為であることを理解させる。
- ・集団によるいじめの場合、いじめを行っていた中心者が、表面に出ていないことがあるため、いじめの集団内の力関係や一人一人の言動を正しく分析して指導する。
- ・いじめを行った児童が、どんなことがいじめであるのか分かっていない場合も考えられるので、どのような行為がいじめであるかをじっくりと説諭する。
- ・いじめの態様によっては、犯罪に当たる場合があることを理解させる。
- ・いじめを行った児童の背景や心理状態等を十分理解し、学校生活に目的を持たせ、人間関係や生活体験を豊かにする指導を根気強く、継続して行う。
- ・いじめが解決したと見られる場合でも、教師の気付かないところで陰湿ないじめが続いていることもあるため、そのときの指導によって解決したと即断することなく、継続して十分な注意を払い、折に触れて必要な指導を行う。

【家庭に望むこと】

- ・いじめは絶対に正当化できないものであるという毅然とした姿勢を示すとともに、本人に十分言い聞かせる。
- ・子供の変容を図るために、子供との今後の関わり方や家庭教育の見直し等について、本人と保護者が一緒に考える。

③ いじめを受けている児童の保護者への学校の対応

- ・いじめの訴えはもちろんのこと、どんなささいな相談でも真剣に受け止めて、誠意ある対応に心がける。
- ・家庭訪問をしたり、来校してもらったりして話し合いの機会を早急に持つ。その際、不安と動揺の心で来校する保護者の気持ちを十分に受け止めて、対応策について協議する。また、学校として、いじめを受けている児童を守り通すことを十分伝える。
- ・いじめについて、学校が把握している実態や経緯等を隠さずに保護者に伝える。
- ・学校での様子について、その都度家庭に連絡するとともに、必要に応じ個別の面談や家庭訪問を行うなど、解決するまで継続的に保護者と連携を図る。

- ・必要な場合は、緊急避難としての欠席も認めることを伝える。
- ・家庭においても子供の様子に十分注意してもらい、子供のどんな小さな変化についても学校に連絡するよう要請する。

④ いじめを行っている児童の保護者への学校の対応

- ・いじめの事実を正確に伝え、いじめを受けている児童や保護者のつらく悲しい気持ちに気付かせる。
- ・教師が仲介役になり、いじめを受けた児童の保護者と協力して、いじめを解決するため保護者同士が理解し合うように要請する。
- ・いじめは絶対に正当化できないものであるという毅然とした姿勢を示すとともに、家庭でも十分言い聞かせてもらうよう要請する。
- ・いじめを行った児童の立ち直りに向けて、保護者と話し合う時間を大切にするとともに、必要に応じて関係機関を紹介するなど、適切に対応する。
- ・保護者に対して、指導内容や指導後の本人の様子などを明確に伝え、協力して見守っていくことを共通理解する。
- ・児童の変容を図るために、児童との今後の関わり方や家庭教育の見直し等について、本人や保護者と一緒に考え、具体的に助言する。

⑤ 周りで見ていたり、はやし立てたりしている児童への学校の対応

- ・当事者だけでなく、いじめを見ていた児童からも詳しく事情を聴き、実態をできるだけ正確に把握する。
- ・いじめを見ていた児童に対しても、自分の問題として捉えさせる。
- ・たとえ、いじめを止めさせることはできなくても、誰かに知らせる勇気を持つよう伝える。
- ・はやし立てるなど同調していた児童に対しては、それらの行為はいじめに加担する行為であることを理解させる。
- ・学級活動や集会等により、いじめは絶対に許されない行為であり、根絶しようという態度を行き渡らせる。
- ・全ての児童が、集団の一員として、互いを尊重し、認め合う人間関係を構築できるような集団づくりを進めていく。

2 重大事態への対処

(1) 重大事態の発生と報告

① 重大事態の意味

ア 生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑い

- 児童が自殺を企図した場合
- 身体に重大な傷害を負った場合
- 金品等に重大な被害を被った場合
- 精神性の疾患を発症した場合 等

イ 相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑い

- 「相当の期間」の目安は年間30日
- 一定期間連続して欠席しているような場合は、教育委員会又は学校の判断により迅速に調査に着手

② 重大事態の報告

重大事態と思われる案件が発生した場合には直ちに教育委員会に報告する。

(2) 重大事態の調査

重大事態に対処するとともに、同種の事態の発生の防止に資するために行う。

学校が調査の主体となる場合には、いじめ問題対策チームが母体となり、必要に応じて適切な専門家を加え、教育委員会の指導の下、調査する。

いつ（いつ頃から）、誰から行われ、どのような態様であったか、いじめを生んだ背景事情や児童の人間関係にどのような問題があったか、学校・教職員がどのように対応したかなどの事実関係を、可能な限り網羅的に明確にする。

たとえ不都合なことがあったとしても、事実にしかりと向き合い、調査結果を重んじ、再発防止に取り組む。

また、調査を実施する際は、いじめを受けた児童を守ることを最優先とし、保護者の要望・意見を十分考慮して行う。

(3) 調査結果の提供及び報告

① いじめを受けた児童及びその保護者への適切な情報提供

調査により明らかになった事実関係（いじめ行為がいつ、誰から行われ、どのような態様であったか、学校がどのように対応したか）について、教育委員会の指導の下、いじめを受けた児童やその保護者に対して説明する。

② 調査結果の報告

調査結果について、教育委員会に報告する。

上記①の説明の結果を踏まえて、いじめを受けた児童又はその保護者が希望する場合には、いじめを受けた児童又はその保護者の所見をまとめた文書を調査結果の報告に添えて教育委員会に送付する。

第3 その他いじめの防止等のための取組に関する事項

1 学校いじめ防止基本方針の公表

策定した学校いじめ防止基本方針は、学校のホームページで公表するとともに、PTA総会等の機会を捉え、保護者に説明・啓発する。

2 主な相談機関の案内

相談機関	電話番号	受付時間
珠洲市青少年育成センター	0768-82-7826	月～金 9:00～17:00
石川県教育委員会 24時間SOS相談テレフォン	076-298-1699	24時間受付
石川県こころの健康センター	076-238-5750	月～金 8:30～17:15
石川県家庭教育電話相談	076-263-1188	月～土 9:00～13:00
金沢地方法務局 子ども的人権110番	0120-007-110	月～金 8:30～17:15
金沢少年鑑別所内 金沢法務少年支援センター	076-231-1603	月～金 9:00～16:00
石川県警少年サポートセンター いじめ110番	0120-61-7867	24時間受付
金沢こころの電話	076-222-7556	月～金 18:00～23:00 土 15:00～23:00 日 9:00～23:00
チャイルドラインいしかわ	0120-99-7777	月～土 16:00～21:00

第4 いじめ発見時の対応



